

令和6年度 県立広島大学 学部・学科・コース等によるFD活動（教育改善）計画書

FD活動 実施主体	コーディネーター 氏名	日時	実施場所	実施内容等
地域創生学部 地域創生学科 地域文化コース	吉本和弘 目黒将史	2025年3月	1811 地域文化 共同研究室 またはオンライン 会議	テーマ： 地域文化コースにおける卒業論文（専門演習）・地域課題解決研究ルーブリック活用の実践報告
				実施目的： 2023年度末に地域文化コースの卒業論文と地域課題解決研究の指導において、ルーブリックの作成のための検討会を実施し、24年度には卒業論文と地域課題解決研究、さらに各教員が担当する「論」においてルーブリックを活用する方法を模索し24年度に本格導入することを決めた。2024年度にどのように活用されたのかを報告し合い、その成果を検証する。ルーブリックによってどのような成果、学習効果が得られたのかを検証する。
				キーワード：科目ルーブリック、卒業論文（専門演習）、地域課題解決研究
				実施内容： ・2024年度の各ゼミにおける実践例を踏まえた報告会を行う。 各教員のルーブリック活用実績について報告を行う。（発表者：コース教員） ・報告会を踏まえ、2025年度の実践につなげていく。
地域創生学部 地域創生学科 地域文化コース	吉本和弘	2024年後期 （未定）	1811 地域文化 共同研究室 またはオンライン 会議	テーマ： 地域文化コースの科研費獲得のための研修会として、コース教員による科研研究課題の紹介
				実施目的：すでに科研費によって実施した研究課題をお互いに紹介し合うことで、お互いの研究について知り、同時に科研費獲得のノウハウやコツ、研究における経験などを共有することによって、コース全体としての科研費獲得率の向上を目指す。
				キーワード：科研費による研究課題
				実施内容： 過去の科研費獲得の経緯と研究課題内容の紹介（報告15分＋質疑5分）（発表者：コース教員）

令和6年度 県立広島大学 学部・学科・コース等によるFD活動（教育改善）計画書

FD活動 実施主体	コーディネーター 氏 名	日 時	実施場所	実 施 内 容 等
地域創生学部 地域創生学科 地域産業コース （経営分野）	朴 唯新	通年 第2水曜日 コース会議	Teams における オンライン会議	テーマ： アクティブ・ラーニングにおける学びの多様性
				実施目的： 合理的配慮の観点からコミュニケーションが苦手な学生への対応を考える
				キーワード： アクティブ・ラーニング、配慮学生への対応
				実施内容： 近年、大学教育では「アクティブ・ラーニング」が積極的に導入されている。しかし、コロナ以降、対人関係に困難を抱える学生から「アクティブ・ラーニング型」の授業に関する相談が多く寄せられるようになり、授業欠席による退学事例も散見されるようになった。このような状況を踏まえ、本FDでは、学生（コミュニケーションに困難を抱える学生を含む）を対象としたアクティブ・ラーニング型授業の進め方について、運営現場の教員と経験や情報を共有する。
地域創生学部 地域創生学科 地域産業コース （情報分野） 〔経営情報学部 経営情報学科〕	富田哲治 折本寿子 佐々木宣介 重丸伸二	通年毎月第2水 曜日の定例コ ース会議	1321 演習室	テーマ： 地域産業コース情報分野における課題探究型地域創生人材ルーブリック作成の研修会
				実施目的： 地域産業コース情報分野の専門科目において課題探究型地域創生人材ルーブリックの導入と活用の支援を組織的に実施することが目的である。地域産業コース情報分野の3つのポリシーと各専門科目との関連性を踏まえたルーブリック作成について情報共有を行う。
				キーワード： 親ルーブリック、科目ルーブリック、カリキュラムポリシー
				実施内容： 課題探究型地域創生人材ルーブリックを親ルーブリックとして、地域産業コース情報分野の専門科目の科目ルーブリックの導入・作成を支援するための研修会をコース会議に合わせて不定期に実施する。具体的には、授業形態（講義型、演習型、実験型、グループワーク型など）に応じて、ルーブリックによる評価すべき優先項目について類型化し、各教員の担当科目で導入すべき項目の情報提供を行うことで、導入を支援する。

令和6年度 県立広島大学 学部・学科・コース等によるFD活動（教育改善）計画書

FD活動 実施主体	コーディネーター 氏 名	日 時	実施場所	実 施 内 容 等
地域創生学部 地域創生学科 健康科学コース 〔人間文化学部 健康科学科〕	神原知佐子 杉山 寿美 松本 茜 山岡 雅子 6月着任予定教員	令和6年7月頃	未定	<p>テーマ： 学生のキャリアデザインを支援する組織的取り組み</p> <p>実施目的： 本コースでは、①健康の維持・増進、疾病予防を食・運動面から企画・実践する人材の育成、②社会の指導的立場を担う管理栄養士・研究者・教育者・技術者の養成に取り組んでいる。取得できる免許・資格として、栄養士免許、管理栄養士国家試験受験資格、食品衛生監視員・食品衛生管理者任用資格、栄養教諭一種免許状がある。卒業生が活躍するフィールドとして、官公署（管理栄養士、行政、衛生一般）、学校（栄養教諭）、病院、大学教員（管理栄養士養成課程、スポーツ分野）、公的研究機関（食品分野）等があげられる。本コースが養成を目指す人材像を踏まえて学生が4年間の学修活動を実践できるように、コースでの学びへの動機づけ、キャリアビジョンの明確化及びキャリアデザインを支援する組織的な取り組みを検討する。</p> <p>キーワード： 養成する人材像、キャリアビジョン、キャリアデザイン</p> <p>実施内容： 本コースが養成を目指す人材像を具現化している卒業生を招き、仕事内容ややりがい、学生時代に力を入れて取り組んでおくべきことなどを在学生及びコース教員に講話してもらうとともに、意見交換会等を開催する。 予定講師： 病院管理栄養士1名、行政管理栄養士1名、食品衛生監視員1名、栄養教諭1名、大学教員1名、大学院・研究機関1名等</p>

令和6年度 県立広島大学 学部・学科・コース等によるFD活動（教育改善）計画書

FD活動 実施主体	コーディネーター 氏名	日時	実施場所	実施内容等
生物資源科学部 地域資源開発学科	甲村浩之 荻田信二郎	令和6年4月～ 随時開催	Zoomによるオ ンライン審議、 第一会議室等	テーマ：地域資源開発学科の進路についての情報共有とキャリア教育の実践
				実施目的：地域資源開発学科では昨年度初めて卒業生を送り出した。まだ、新しい学科なので新学科の就職先（教職、官公庁、民間）、進学先（県大・他大学）、取得資格（教職・農業、食の6次産業Pro、食品衛生検査員、農業技術検定）等の情報共有を密に行うことで今後の学生指導、カリキュラムの改善に進める。
				キーワード：就職、進学、資格
				実施内容： 対象 ：地域資源開発学科教員 方法 ：教学科にも協力いただいて情報を提示、より深い内容を各教員から提供し（情報の扱いには注意し）、1～4年時の単位取得、学生本人の取り組みなどの情報を精査しながら、今後の学科での学生教育、指導に活かしていく。また、これまで学科内で行ったキャリア教育の事例も共有する。
	藤田景子 村田和賀代 谷垣悠介 甲村浩之	通年 毎月第2水 曜 2限 他	Zoomによるオ ンライン審議、 第一会議室、フ ィールドC等	テーマ：国際異文化農業体験研修の在り方の検討と実践
				実施目的：ローカルとグローバル双方を学ぶ当学科の同科目について、昨年度は2年生ほぼ全員に対して実施でき、令和5年度では令和6年度に多少でも改革できるように変更を協議し進めた。また、フィールド科学実習Ⅰの内容や他科目とどのように具体的に連動させていくかができていないので、継続して検討していく
				キーワード：国際異文化、実習、カリキュラム
				実施内容： 対象 ：地域資源開発学科教員 方法 ：ベトナム、タイグエン農林大学等で学生が学んだ内容と実習等の科目についての連動について情報交換し、学生指導やカリキュラムの構築にいかす。

令和6年度 県立広島大学 学部・学科・コース等によるFD活動（教育改善）計画書

FD活動 実施主体	コーディネーター 氏 名	日 時	実施場所	実 施 内 容 等
生物資源科学部 生命環境学科 生命科学コース	松崎秀紀	通年 毎月第2水曜 2限	対面による会議	<p>テーマ： 学生に卒業研究を進める意義を考えさせる</p> <p>実施目的： 生命科学コースでは3,4年次に卒業研究を行う。しかし、卒業研究の意義、位置づけを理解しないまま研究室に配属される学生も多い。本年度は、本学部卒業生による1,2年生向けの講義を企画し、学生に早くから卒業研究を考えさせるための動機付けとする。講義では、卒業研究がその後のキャリアにどう役立ったか、卒業生の方からその具体例を解説していただく。</p> <p>キーワード： 卒業研究、卒業生による講義、ロールモデル、教育力向上</p> <p>実施内容：</p> <p>学生に卒業研究、地域課題解決研究を早くから意識させ、卒業研究を有意義に進めさせるために、本学部卒業生にお願いして、本学在学時の研究と現在のお仕事との関連についてお話しいただく。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・1年生向けの生命環境科学基礎セミナー、2年生向けの生命科学セミナーでは、これまで、かなりの時間を割いて卒業研究について説明してきたが、学生の反応を見ると、卒業研究の意義を十分に伝え切れていないようにも見える。より具体的に研究について考えてもらう手段として、本年度は、大学研究者もしくは企業研究員として活躍する本学卒業生にお願いして、本学在学時の研究と現在のお仕事との関連についてお話しいただく。ロールモデルとなる卒業生の体験談は、各学生が卒業後の進路を考える良い材料となると期待される。 ・現職だけでなく、退職された教員にもお声がけして、まず、相応しい卒業生の候補者リストを作成する。その上で、教員間で今年度の主たるテーマを議論し、そのテーマにふさわしい卒業生を選定し、講義の依頼を行う。 ・卒業生の招待講演までに（各セミナーの最後に行う予定）、各教員は、招待講演の内容の背景について自らの講義時間内で簡単な解説を加え、学生の理解を助けるように配慮する。これにより、各教員の講義のブラッシュアップにもつながり、各自の教育力の向上も図られる。

令和6年度 県立広島大学 学部・学科・コース等によるFD活動（教育改善）計画書

FD活動 実施主体	コーディネーター 氏 名	日 時	実施場所	実 施 内 容 等
生物資源科学部 生命環境学科 環境科学コース	橋本温	対象日で3-5時 限にかけて授業 を行う。班によ って実施週が異 なる A班： 10月9日 および 10月23日 B班： 10月2日 および 10月16日	庄原キャンパス 大講義室	テーマ： 環境科学と社会をつなげる
				実施目的：生命環境科学では、生命と環境が融合した様々な研究内容が行われるとともに社会に活かされている。生命環境科学基礎セミナーでは、生命と環境が関係する様々な面の活きた授業を行っている。本活動では、そのうち環境科学関連で、社会で活躍している公的機関・企業から講師を呼び、社会で環境科学がどう活かされているかを知り、より深い理解を行うことを目的とする。
				キーワード： 行政、企業活動、ディスカッション
				<p>実施内容：前置きの後に3、4時限にかけて各講師に講義を行ってもらい、5時限目にグループディスカッションを行う流れである。ディスカッションでは、教員・学生が相互にディスカッションを行うことで理解を深める。生命環境科学基礎セミナー全体での受講数は約100名となるので、機動的に授業を行えるようにA班、B班と分けて、スケジュールを組む。</p> <p>初日： ・エフピコ：総合的プラスチックメーカーである。 ・広島県</p> <p>2日目： ・いであ：環境調査などのコンサルタント企業である。 ・環境省</p> <p>FDに関連する事項： *実践的な授業参観(ピアレビュー)科目として、過去に授業公開を実施した。 *「オリエンテーションゼミ」および2年次科目である「環境科学セミナー」等と連携し環境科学版のポートフォリオである「学習の記録」等を記録し、各学生の環境科学への理解を促進すると共に、その教育効果に関する情報を次年度の教育改善に利用している。 *学生の積極的な授業への関与の試みとして、授業中のFormsを利用した質問等の聴取、授業後のアンケートを行い、その情報を次年度の教育改善に利用している。</p>

令和6年度 県立広島大学 学部・学科・コース等によるFD活動（教育改善）計画書

FD活動 実施主体	コーディネーター 氏 名	日 時	実施場所	実 施 内 容 等
保健福祉学部	◎青井聡美 助川文字 大古場良太 中村文 今川記恵 越智あゆみ (事務) 小嶋雅子 勝尾菜弥	①令和7年3月 初旬予定 ②日程未定	①ハイフレックス ②オンライン (予定)	<p>テーマ： ①自己の教育理念の実現に向けた授業改善 ②医療安全対策</p>
				<p>実施目的： 自己の教育理念を再評価し、それに基づいた授業改善を図るために保健福祉学部（保健福祉学科5コースと助産学専攻科）の教職員が協働する機会を設け、保健福祉学部の教育力と質の向上を目指す。</p>
				<p>キーワード： 教育理念、授業改善、教育力向上、医療安全</p>
				<p>実施内容： テーマ① 対象：保健福祉学部の5コース、助産学専攻科の教員、職員 日時：令和7年3月初旬予定（約120分予定） 形式：1.ハイフレックス。メインは対面形式とする。 2.7月から8月にかけて、5コースと助産学専攻科にテーマの対する下位テーマのアンケート調査を行う。 3.下位テーマの内容に応じたディスカッションの方法を立案（案） ①簡易版TPチャート作成を行う（45分）。今回のFD活動までにTPチャートを記載したことがある教職員については、この時間は参加しなくてもよい。TPチャートを見直す時間とする。 ②ディスカッションの方法を説明（10分）後、4～5人グループで作成したTPチャートをもとに意見交換を行う。（60分） ③まとめ（15分） 1グループの構成は、5コースと助産学専攻科の教員、職員がそれぞれ入り、他コースとの意見交流の場となるようにする。</p> <p>テーマ② 対象：保健福祉学部の5コース、助産学専攻科の教員、職員およびSA等の学生 内容：各コースや附属診療センター等から依頼があった研修案内を、研修部門委員で審議し、本年度のFDテーマに沿った適切な内容と思われる研修について、学部FDと位置づけ、積極的に研修対象者に参加を促す。</p>

令和6年度 県立広島大学 学部・学科・コース等によるFD活動（教育改善）計画書

FD活動 実施主体	コーディネーター 氏名	日時	実施場所	実施内容等
保健福祉学部 保健福祉学科 看護学コース (看護学科)	実習検討会 岡田淳子	毎月1回	Teams オンライン会議 または対面	<p>テーマ： I：実習指導担当者との情報共有と協議：昨年度実習の成果と課題・看護実習教育の質の向上 II：臨地看護実習教育の充実</p> <p>実施目的： 本学教員と実習指導担当者間で情報共有と協議を行い、臨地実習における学生の現状と課題を把握・共有し、円滑な臨地実習の運営と看護教育の質向上を図る</p> <p>キーワード： 臨地看護実習、情報共有、看護教育質向上</p> <p>実施内容： テーマI：実習指導担当者協議会の開催・・・令和6年4月19日開催する。</p> <p>テーマII：臨地看護実習教育の充実に向けて設定した以下の内容について検討しコース内で共有する。</p> <ol style="list-style-type: none"> 令和6年度入学生用臨地実習要綱を作成し、実習の全体像を学生に説明する 実習施設と調整し、令和7年度実習計画案を作成する 実習における感染症対策の実施と感染状況を把握し、予防対策を周知する 「看護技術の卒業時到達レベルと経験録」の集計を行い、現状を把握する SNSにおける個人情報取り扱いを啓発する
保健福祉学部 保健福祉学科 看護学コース (看護学科)	看護学コース FD担当 青井聡美	テーマI： 5月下旬 テーマII： 毎月1回	Teams オンライン会議 または対面	<p>テーマ： I：新カリキュラム科目「看護統合演習」における演習内容の充実 II：意義のある研究のためのヒントをえて、研究力、教育力の向上を図る</p> <p>実施目的：看護大学教員に必要とされる「研究実践力」「教育力」「教員間協働力」の向上を図る</p> <p>キーワード： 研究実践力 教育力 看護統合演習</p> <p>実施内容： テーマI： 日時：令和6年5月下旬（予定） 内容：「看護統合演習」における演習内容（シミュレーション演習・技術演習をコース内教員で共有し、意見交換を行うことで演習内容の充実を図る。</p> <p>テーマII：ランチディスカッション 日時：毎月1回 第3火曜日 12：15～12：45 内容：学会誌、書籍や看護専門雑誌の記事で取り上げられている「看護研究」に関するトピックスを取り上げ、ディスカッションを行う</p>

令和6年度 県立広島大学 学部・学科・コース等によるFD活動（教育改善）計画書

FD活動 実施主体	コーディネーター 氏名	日時	実施場所	実施内容等
保健福祉学部 保健福祉学科 看護学コース (看護学科)	教育課程検討会 青井聡美	毎月1回	Teams オンライン会議 または対面	<p>テーマ：①看護学コース カリキュラム評価の検討 ②学修支援・卒業生アドバイザーの運用 ③国家試験対策</p> <p>実施目的：看護学コース DP ルーブリックと教育内容を多方面から分析を行い、効果的な学修環境の充実を図る。</p> <p>キーワード：カリキュラムツリー 学修支援アドバイザー 国家試験対策</p> <p>実施内容： 1. カリキュラム評価の検討 ・看護学コース DP ルーブリック集計・分析（1～4年：4月，卒業前：12月） ・カリキュラムツリーの作成（5月頃完成予定） 2. 学修支援アドバイザー（在学生・卒業生）の運用 3. 国家試験対策（国家試験模試除く）と教員採用試験対策 ①国家試験対策通信作成（年2回） ②国家試験模試後のチューター面談の依頼と学修状況が気になる学生への対応の検討 ③演習室利用等の調整 ④令和6年度看護師・保健師国家試験自己採点の集計・評価 6.</p>

令和6年度 県立広島大学 学部・学科・コース等によるFD活動（教育改善）計画書

FD活動 実施主体	コーディネーター 氏 名	日 時	実施場所	実 施 内 容 等
保健福祉学部 保健福祉学科 理学療法学 コース	大古場良太	毎週水曜日 昼休み	Teams オンライン	<p>テーマ： 「適切な支援のための学生状況の把握と共有」、「新カリキュラムに向けた魅力ある専門科目の設定」、「各教員の研究領域の紹介」</p> <p>実施目的： 「多様な学生への支援を柔軟かつ適切に対応するため」、「国家試験やコアカリキュラムに即した科目内容を検討し、受験生に選ばれる魅力的な専門科目を設定するため」、「最新の研究知見をふまえた専門教育の充実を図るため」</p> <p>キーワード： 学生支援、国家試験、教育実践</p> <p>実施内容：</p> <p>(1) 「適切な支援のための学生状況の把握と共有」について 現在も本学では対面講義とオンライン講義が併用されていることから、それぞれの状況について学年チューターを中心に科目担当や学科教員とともに学生状況を把握し、支援の一貫化を図る。そのため、コース会議での報告を通して支援や配慮が必要な場合はチューターを中心に詳細を報告して対応を協議する。また、臨床実習では臨床実習指導者と教員が連携して学生の実習状況を共有し、円滑な実習を送れるよう支援する。</p> <p>(2) 「新カリキュラムに向けた魅力ある専門科目の設定」について コアカリキュラムや国家試験出題基準に即した内容を吟味し、専門教育のさらなる充実を図るとともに受験生に魅力ある専門科目を検討する。国家試験模試結果の共有や国家試験対策講義、個別支援等に活用し、コアカリキュラムに沿った講義内容へ洗練する。また、担当科目の教授法の実践例紹介を通して、座学・演習科目間の関係を図る。さらに、指定規則改定に伴う実習体制の検討や教育プログラムの構築、新施設基準に即した教育物品の購入・充実化も継続する。</p> <p>(3) 「各教員の教育・研究領域の紹介」について 各教員の教育・研究領域における成果の共有や最新のトピックスを紹介することで、教育研究能力の向上を図る。コース会議に合わせて月1回程度、各教員の研究紹介などを実施する。</p> <p>(1)(2)(3)の内容は、個人情報を含むコース特有の内容についての議論が必要であるため、公開については取り扱う内容によって判断する。</p>

令和6年度 県立広島大学 学部・学科・コース等によるFD活動（教育改善）計画書

FD活動 実施主体	コーディネーター 氏 名	日 時	実施場所	実 施 内 容 等
保健福祉学部 保健福祉学科 作業療法学 コース	助川文子	テーマⅠ コース会議 (毎回) テーマⅡ 年10回 毎月第1・3水曜 12:30-13:00	ハイブリッド (4102会議室 とTeams)	テーマⅠ：学生支援の検討 テーマⅡ：「魅力ある作業療法学」
				実施目的： テーマⅠ：学生の情報共有と指導・援助のコース内のコンセンサスを図る。事例検討 テーマⅡ：「作業療法の魅力」を教員間でオープンキャンパスや高大連携、高校訪問に大学院向け、県立広島大学の作業療法の魅力について、情報の共有を図る。
				キーワード： 学生指導、 国家試験指導、 アクティブラーナー、 作業療法の魅力、 研究
				実施内容： コース会議：学生情報の共有 ①（5月15日）（池内/古山）令和5年度国家試験総括 ②（6月19日）（藤巻）「学生意識調査から見える作業療法学コース学生の認識」 ③（7月17日）（助川）オープンキャンパス（作業療法学）参加者の傾向 ④（8月7日）（吉川）「魅力ある作業療法学」（全体） ⑤（9月18日）（久野） 「魅力ある作業療法学」（大学院教育） ⑥（10月16日）（高木）「魅力ある作業療法学」（地域作業療法） ⑦（11月20日）（織田）入試における面接（推薦入試直前） ⑧（12月18日）（増田/高木）4年チューターによる国家試験前の情報提供 ⑨（1月15日）（田中）「魅力ある作業療法学」（基礎研究と作業療法） ⑩（2月19日）（1-3年チューター 各10分）学年指導の総括

令和6年度 県立広島大学 学部・学科・コース等によるFD活動（教育改善）計画書

FD活動 実施主体	コーディネーター 氏 名	日 時	実施場所	実 施 内 容 等
保健福祉学部 保健福祉学科 コミュニケーション 障害学コース	中村 文	令和6年4月 ～令和7年3月 (年8回程度)	三原キャンパス 内会議室などで 対面で、 あるいは、 Teams 上にて オンラインで、 実施	<p>テーマ：年間を通じたコースでの教育改善活動を目的とし、併せて研究活動、臨床および地域貢献活動の活性化を図る</p> <p>実施目的：①教育の質の向上、②教育の成果に即したカリキュラム改善、③教員の研究・臨床能力の向上および研究・臨床活動の活性化</p> <p>キーワード： 教育の改善、研究・臨床活動情報共有、伝達講習</p> <p>実施内容：</p> <p>①教育の質の向上を目的として、各教員が行っている教育活動、臨床および研究、地域における活動、実施・参加したFDに関する研修などの内容を共有する。</p> <p>②教育の成果に即したカリキュラム改善を目的として、年間を通して教育課程の改善について検討を行う。</p> <p>③本活動を通し、教員の研究・臨床能力の向上と研究・臨床活動の活性化を促進させる。</p> <p>以上の内容について、各教員から話題提供をし、情報共有、意見交換等する。</p> <p>以降、1回/1～2ヶ月程度実施予定。</p>

令和6年度 県立広島大学 学部・学科・コース等によるFD活動（教育改善）計画書

FD活動 実施主体	コーディネーター 氏名	日時	実施場所	実施内容等
保健福祉学部 保健福祉学科 人間福祉学 コース	越智あゆみ	令和6年度	三原キャンパス 内/Teams上	テーマ： 人間福祉学コースの教育の質の向上に向けて
				実施目的： 卒後教育を含む教育体制づくり
				キーワード： 卒業生、ピア・レビュー、ネットワークづくり
				<p>実施内容： 本年度人間福祉学コースでは、以下の活動を行う。</p> <p>(1) 昨年度のコースFDを継続し、卒業生からの聞き取りに取り組み、コース内の教育について検討する機会を持つ</p> <p>①卒業生との関わりについて考え、相互意見交換を図る場として、今年度初めて、Home coming dayの企画・実施を試みる。企画・実施にあたっては、グループに分かれて企画案を検討し、準備を進める。</p> <p>②Home coming dayに参加する卒業生から、本コースの教育内容等について意見を聞き、コース教育について振り返る機会を持つ（年1回）。</p> <p>(2) ピア・レビュー 対面授業でのピア・レビュー（公開および参加）を積極的に行う。</p> <p>(3) 在学生・卒業生・教員のネットワークづくり 在学生・卒業生・教員のネットワークづくりに取り組む。卒業生を迎えた就職ガイダンスを組み込み、交流の機会を持つ。また、今年度卒業を迎える4年生から3年生に、就職活動経験等を小グループに分かれて伝達する機会も設ける。</p>

令和6年度 県立広島大学 学部・学科・コース等によるFD活動（教育改善）計画書

FD活動 実施主体	コーディネーター 氏名	日時	実施場所	実施内容等
助産学専攻科	宮下ルリ子 奥山 葉子 金川 景子 村上 杏里	令和6年4月～ 令和7年3月 (助産学実習期 間を除き月に1 回程度開催)	三原キャンパス 4315 研究室	<p>テーマ： 教育や実践・臨床現場の効果的な質保証に向けた取り組み</p> <p>実施目的： 学生の学修意欲を引き出すための主体的な授業や参加型学修方法、それらを評価するための方法について検討し実践に繋げる。また教員の学修指導力の向上や教員自身の実践力を身につけることを目的とする。</p> <p>キーワード： シミュレーション教育，客観的臨床能力試験：OSCE</p> <p>実施内容： アフターコロナや少子化等、周産期に関する社会情勢の急激な変化に伴い、複雑化する諸問題への対応が必要となっています。こうした中、助産学専攻科では、幅広い知識と柔軟な思考力に基づき、学生自らが考え、仲間とともに主体的に学ぶ授業スタイルを大切にしています。教員は専門職としての自律を担保し、また、臨床現場に即した実践能力や教育方法を検討するとともに、具体的な評価方法を検討・実践する必要があります。</p> <p>① 入学時の学生の習熟度（プレテスト）と評価について ② タスク・トレーニングの検討と評価について ③ 妊娠・分娩・産褥新生児（各）期のシチュエーション・ベースド・トレーニングと評価の検討 ④ シミュレーション教育後の実習での学び方（7/24） ⑤ 女性のライフステージに沿ったシチュエーション・ベースド・トレーニングと評価の検討以降、月に1回程度開催予定。</p>